

ロータリーの「職業奉仕」を今一度考えましょう

◎ 国際ロータリー第2590地区 ガバナー 金子 大

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

昨年7月にスタートした本年度も、前半を無事乗り切ることができました。これは偏にパストガバナーのご指導と当地区役員、ガバナー補佐、各委員長並びに委員の皆様方の、そして地区内56RCのロータリアンの絶大なるご協力をいただいたお陰であり、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

この第2590地区が本格的な変革に一步踏み出してから3年目、どうやら軌道に乗せることができたかなと思っておりますが、まだまだ道半ば、後半も引き続き気を引き締め頑張ってまいりますので、よろしくお願いたします。

特に前半におけるガバナーの最大の重責は、地区内56RCを公式訪問することと、地区最大の行事である地区大会を主催することでしたが、どちらも無事責任を果たすことができました。改めて御礼申し上げます。

§

さて今月は何かと話題の尽きない職業奉仕月間です。

ロータリーでは、今現在「クラブ奉仕」「職業奉仕」「社会奉仕」「国際奉仕」「青少年奉仕」の5奉仕部門に分かれて活動しているのですが、中でも日本のロータリーでは「職業奉仕」に対して特別な気持ちを抱いているロータリアンが多く見受けられます。

この職業奉仕の理念を要約すると、「会員は各職業を代表してロータリークラブに入会します。互いに切磋琢磨し、自らの人格と職業倫理の更なる向上に努めるというのが、ロータリーにおける職業奉仕の基本です。自らの企業の倫理性を高め、従業員やその家族に対する責任や社会に対する責任を果たすこと、このようにして倫理にかなった事業を営むことが顧客の満足と感謝を生み、企業の信用性を高め、結果として自己の企業の安定的かつ永続的な利潤を確保していくことにつながるということ、これが『人生哲学としての職業奉仕』とされているのです」。



§

このロータリーの根幹とも言える職業奉仕の理念をめぐって、日本では最近不要論、擁護論が飛びかい論争となっています。この論争はロータリーが誕生した直後から既に起きていて、激しく対立しロータリーの分裂の危機に何度もさらされたことがあったようですが、これを一応収拾させたのが、有名な「決議23-34」です。しかしそれ以降も火種はくすぶり続けているのが現状のようです。既に皆様のお手許に届いているかと思いますが「ロータリーの友」1月号「今に生きる職業奉仕」というテーマで特集が組まれております。7人の職業奉仕に一家言お持ちの方々のご意見を述べておられます。日本のロータリアンが職業奉仕をどのように捉えておられるか、ぜひご一読下さい。出来たらクラブの全員で話し合うことをお奨めします。

※「」内の文章は『ROTARY あなたも新しい風に』ロータリーの友広報誌より引用